

平戸島

朝鮮に向ひ飛び石の如く相並び、海岸線の延長全國に最たり。長崎縣は此地方を管す。海岸出入多く良港に乏しからず。肥前の西北平戸島はいにしへ南蠻人等との貿易場にして、當時は外人の居留地もありき。此地陶器を産す。其南方大村灣口には佐世保軍港あり。東方より來れる九州鐵道は早岐より此所に支線を出だし、本線は大村灣を回り、熊本師團の分營ある大村を過ぎて南方長崎市に至る。長崎は五港の一にして縣廳の所在なり、貿易の活潑なる遠く横濱、神戸に及ばずと雖も、浦潮斯德、朝鮮、支那、其他西洋諸國交通の衝に方り、尙七萬五千の人口を有し、徳川時代を通じて支那、和蘭との貿易場たりしかば、古來海外の知識は多く此地より輸入せられたり。産物には長崎煙草あり。又甘藷多し。其東方、島原半島なる口津は特別輸出入港なり。

長崎市

半島の中央に温泉岳あり、山麓、小濱温泉湧出す。其東岸、島原は肥後の天草と關聯して、有名なる島原亂の古蹟なり。此他西方、五島の福江は、北方、壹岐の勝本、對馬の嚴原、鹿見、竹敷、佐須奈等と共に皆要港なり。中にも、鹿見、佐須奈は朝鮮に對する特別輸出入港にして、竹敷は港内水深く、よく大艦を入れるに足る。斯く良港多きと共に、縣下至る所漁業の利亦少からず。中にも西方五島には鯨及び鳥賊の漁多くして、五島鰯の名著はれ、對馬の海岸には鰯及び海參、雲丹の捕獲多く、干鮑、鱧、鰯等と共に縣下主要の産物なり。又高島炭坑の石炭は産額福岡縣につげり。

壹岐對馬の二島は邊要の地なれば古は防人を派して之を守らしめしが、今は對馬に警備隊あり。

佐賀縣

筑後川

九州鐵道

佐賀市

陶器產地

佐賀縣は肥前の東半を管し、筑後川を以て東の方筑後と堺す。筑後川は利根川、吉野川に比して其中に居るとして筑紫二郎の名あり。九州鐵道は東北より來り、鳥栖にて肥後線に分れ、米穀の產地たる筑後川の流域を過ぎて縣廳の所在たる佐賀市を經、西の方有田を過ぎて長崎縣に入る。佐賀市もとは鍋島氏の城下にして、此藩維新の際勳功多く、薩長土肥の稱あり。明治七年江藤新平等此市に於いて亂をなす。

有田は其北方、伊萬里、其東北、唐津と共に陶器の名產地たり。

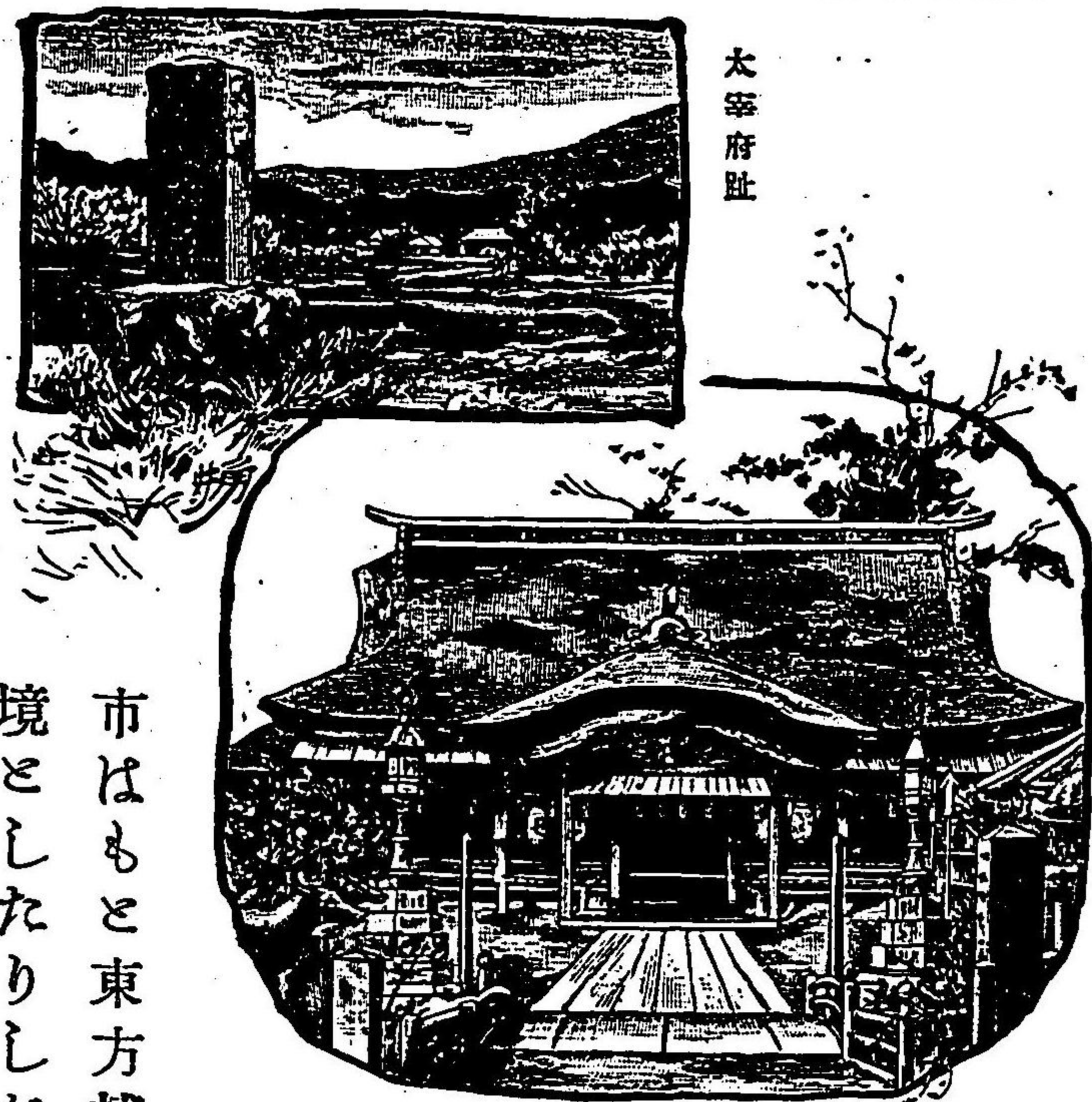
此地往々高價なる美術品を製し、明治九年米國獨立百年祭の萬國博覽會に出品したる花瓶は一個千弗、珈琲椀は一個五弗に賣却せりといふ。ただ此縣下のみならず、九州には陶器製產地多し、蓋し足利末世に茶の湯の大

流行ありて、人々甚だ朝鮮製、支那製の茶碗を珍重せし時代に豊臣秀吉の征韓役ありしかば、九州の諸將多く彼地の陶工を伴ひ來り、大に窯業を奨勵せしによるものにして、有田の如きも、鍋島直茂が韓人李參平、宗傳二人をして開かしめたるより盛大となれるなり。

有田より北、伊萬里へは伊萬里鐵道ありて九州鐵道に連絡す。唐津亦最も古くして往々陶器を呼ぶに「唐津物」の名を以てすることあり。唐津また石炭を産し、港は特別輸出入港の一たり。其北方の海は松浦瀉と稱し、古へ渡韓の船は多く此所より出帆し、其東方なる領巾振山は大伴狹手彦か征新羅出軍の紀念地となり、又其西北なる名護屋は豊臣秀吉征韓役本營の所在たり。

福岡縣

福岡市



太宰府神社

福岡灣にのぞみ名産博多織あり。博多港は特別輸出入港た

境としたりしが、今合して一となる。

市はもと東方博多と那珂川を以て
師團の分營あり。
て、舊城中第十二
田氏の城下にし
あり。此市もと黒
縣廳は福岡市に
首の位置を占む。
舞へる猿猴の頭
半を管し、立つて
後及び豊前の西
福岡縣は筑前、筑

太宰府

り。東、三笠川を渡りて東北に箱崎入幡宮あり敵國降伏の勅額を藏し、香椎には神功皇后の社あり。三笠川の上流には太宰府あり。もと九州全部を管したりし太宰府の遺跡あり、碑を以て之を標す。又此所に菅原道眞の靈を祀れる太宰府神社あり。すべて此邊の地、朝鮮に對して古來對外歴史上の事蹟多く、博多近傍沿岸には水城の古壘尙存するものあり。

門司市

九州鐵道

瀬戸内海の出口に方りて門司市あり、長門の赤間、關市と相對し特別輸出港たり。九州鐵道此所より起りて、小倉織を以て名ある小倉町にて支線を南方行橋に向つて出だし、以て豊州鐵道に連絡し、本線は西の方、折尾にて炭田地方に通ずる同社線と交はり、更に西の方、博多に至り、三笠川に沿ひて筑後川平野に出で、鳥栖より長崎線を分岐し、南方久留米市を経て肥後國に入る。小倉には西部都督部及び第十二師團

小倉

司令部あり。久留米はもと有馬氏の城下にして、久留米耕を産す。此所に小倉師團の分營あり。筑後川平野は所謂筑後米の産地にして、縣下の米は其額實に内國一二の地位にあり、従つて清酒の醸造多し。又多く菜種を植ゑて種油を製し、藍作亦少からず、莫莖亦重要産物の一たるを失はず。然れども縣下第一の産物は石炭にして、當時全國産の殆ど四分の三を出だすといふも不可なし。凡そ九州北部山脈多く石炭層を含む。高島、唐津等のもの皆同一の系たり。而して其最も著はれたるものは肥後境に近き三池炭山、遠賀川の上流嘉麻川地方の炭田とす。彼の九州鐵道中、北方若松より起り、折尾を経て南せるものは、主として嘉麻川地方炭坑の爲めに設けられたるものなり。

石炭

門前

第三節 北域

(イ) 十州

渡島、後志及び膽振國

此三國は十州の西南端にありて、一大半島を成し、本州の北端と對す。此地火山最も多く、其脈膽振の樽前岳、惠庭岳、マシカリ岳、俗に誤つて後別岳と混ず。後別岳は其東南にあり、高さ半に及ばず、有珠岳等を経て、内浦灣(噴火灣)を越え、渡島に入りて駒岳、惠山等を噴起し、更に本州に渡りて中央火山脈となれるなり。樽前、惠庭兩山の間、に支笏湖あり、有珠岳の北に洞爺湖あり、周回各七里、風景に富む。

渡島は半島の南端にして、中央に函館灣を擁す、此所に五港の一なる函館港あり。人口七萬餘、北域第一の繁榮の地にして

火山脈

函館區

福山

て青森を去る二十餘里、北海道廳の支廳ありて之を管す。其北里餘、五稜廓あり、形を以て稱す。維新の際榎本釜次郎等が據守せし所にして、今は有名なる製氷地たり。之より西北七飯村を経て内浦灣に瀕する森港に達すべし。七飯に農事試験場あり、龜田支廳ありて渡島の東半と膽振の西部とを管す。森港は室蘭港に對し、内浦灣の要港たり、他日鐵道は箱館より此地を経て小樽に通ずべし。

渡島の西南端に福山あり。もと松前と稱し、全島の首府たりしが、今は有名なる鯨の漁場となれり。支廳あり此地方を管す。江差は其北方にあり、檜山支廳の所在たり。之より北方後志に入り、利別川を渡り、尙東北に進まば壽都に達すべし。利別川には渡島の知内川と共に砂金を産す。

「マツ」とは川の義なり、「ナイ」とは溪の義なり、共にアイヌ語にして、此外、山を

炭鐵鐵道

「マツ」と云ひ、村落を「ユタ」云といひ、陸を「シリ」といふ、北海道の地名にかか
る語尾を有するもの多し。

壽都は辨慶崎の東南にあり、日本海岸の要港にして、支廳あり。其東北岩内は亦支廳の所在にして、岩内炭山を以て著はる。之より東北積丹半島を過ぐれば小樽港あり、日本海岸に於ける第一の要港にして、鐵道之より起り、札幌を経て石狩の諸炭山に通じ、又東南、室蘭港に達す。されば石狩諸炭山の石炭は鐵道の便



小樽鐵道

によりて容易に小樽、室蘭の兩港に致さるべく、従つて此兩港は共に特別輸出港たり。而して此兩所亦共に支廳の所在地なり。

室蘭

室蘭は内浦灣口にあり。繪鞆岬、港口を擁し、水深くして軍港たるべき地なり。多く雲丹を産す。又灣の西岸に砂鐵の産あり。室蘭より發せる鐵道は海岸に沿ひて、苫小牧に至り、之より内地に向つて石狩國に入る。此邊の地は地勢上石狩に屬すべし。

石狩國

炭山

石狩は日本第一の長流なる石狩川の流域地方にして、石狩大平野あり。其東方の山地には石炭鑛に富み、夕張、幌內、郁春、別、空知等皆著はれ、室蘭より來れる鐵道は支線を此各炭山

に出だして運輸に供す。故に此鐵道を炭鑛鐵道と稱す。其岩見澤よりは、更に西の方、札幌を経て小樽に通ず。岩見澤には空知支廳あり。

札幌區

札幌は石狩平野の西方にあり。石狩川の支流豊平川に沿ひ、街衢井然、繁華箱館につき、北海道廳あり、第七師團司令部亦此地にあり、其他農學校、製糖會社、製麻會社、ビール會社等ありて、實に北海道拓殖の中心なり。此所に支廳あり、平野の大部を管す。

石狩川

石狩川は石狩岳より發し、水源に石狩大瀧あり、西南流して上川地方の廣野を過ぎ、旭川、神居古潭等を経て、雨龍川、空知川等を併せ、石狩平野中を迂曲して石狩港に注ぐ。長さ百六十七里、舟楫の通ずること百里に及び、其流域は大平野をなし、實に北海道中最有益の川といふべし。此川の鮭亦産額甚

だ多し。旭川に上川支廳あり、上川地方を管す。此地方寒氣強
けれども、地肥え屯田の業盛なり、此所に離宮撰定地あり。官
有鐵道は炭鑛鐵道の後をうけて川に沿ひて上り、今已に蘭
留及び美瑛に通ず。他日まさには前者は天鹽、北見に、後者は十
勝、釧路、根室に通ぜんとするなり。

日高國

日高は東北に日高山脈を貫ひ、諸川皆並行して西南に流れ
太平洋に注ぐ。沙流川最も大にして、附近土人の村落多し。其
平取には源義經の祠あり、土人の崇敬厚し。概して此國は土
人最も多く殆ど全數の五分の二を占む。
新冠には牧場多く、馬を産す。浦河には支廳あり、全國を管す。
海岸屈曲少く良港なし、幌泉稍稱すべし。

土人村落

天鹽國

天鹽は東北に天鹽山脈を貫ひ、天鹽川ありて東南隅、天鹽岳
より發し、山脈と並行して日本海に入る。長さ七十餘里、本島
第二の長流にして、下流に平野あり。海岸は屈曲少く港灣に
乏し。然れども昆布、鯨等の利は最も多し。港には苫前、留萌、増
毛など稍稱すべし。中にも増毛は最南にありて小樽と交通
に便なり。此所に支廳あり、全國を管す。

天鹽川

増毛

北見國

北見國は其名の如く、北方、荷哥斯科海に向ふ。國狹長、弓形を
成し、北端、宗谷岬は樺太に對す。鯨の漁多し。其西南稚内に宗
谷支廳あり、國の北部を管す。此國の沿岸亦港灣少く、僅かに

稚内

網走

紋別、網走など數ふべし。網走には支廳あり、國の南部を管す。網走の西南に網走湖あり、西北に能取湖、猿澗湖あり。後の二者は海に通ず。川には常呂川、網走川など大なり。

十勝、釧路及び根室國

十勝川

此三國は共に千島火山脈の南にある一帯の地にして、其海岸、西部は屈曲少く、東部は出入多し。十勝川西方の諸水を集めて海に入る。其流域地方は即ち十勝國にして、十勝大平野あり、將來多望の地となす。ただ水利未だ治らず、時に洪水ありて開墾耕地を害するあるは惜むべし。川に黒曜石あり、流石となりて存す、十勝石といふ。中流に帶廣あり、河西支廳ありて十勝一國を管す。河口大津には昆布の採集多し。

硫黃山

十勝の東は即ち釧路にして、北部の火山脈中、阿寒、屈斜路の二大湖あり、阿寒川前者より出で、釧路川後者より出で、河口にて相合し、釧路港に入る。火山脈中多く硫黃を含蓄し、屈斜路湖の東方には盛に之を採掘するあり。日本全國の硫黃過半は此所より出づといふ。爲めに標茶より此所まで河流に沿ひて鐵道を布設し、之を運搬す。標茶より以下は船によりて釧路港に達す。爲めに此港は特別輸出港なり。

厚岸

東方に厚岸港あり、灣内牡蠣島には最も多く牡蠣を産す。其東に濱中灣あり。釧路、厚岸、濱中は共に沿海の大邑なり。釧路に支廳あり、釧路一國を管す。

之より東北は即ち根室國にして、南隅、花咲半島は知床岬と對して弓形をなし、河は皆東流す。中にも西別川は鮭を以て著はれ、楓蓮川は楓蓮湖に注ぐ。花咲半島に根室港あり、千島

に對して北海道東部の要地たり。ただ冬季灣内の氷結する
あるを惜む。此所に支廳あり、根室及び千島の一部を管す。

(ロ) 千島

千島三十二島、根室と東察加の間に羅列し、國後島に始まり、
占守島に終る。擇捉島最も大にして、島中紗那には支廳あり。
幌筵、國後、得撫之にすぎ、新知、恩禰、古丹、捨子、古丹等之につぐ。
全島を合すれば面積略、四國に近し。其得撫以北は露人嘗て
此地に據りて其領地と稱せしが、明治八年樺太島と交換し
てより全く我が有に歸せり。

千島は氣候寒く、土地多くは磽确にして耕作には適し難し
と雖も、漁獵の利甚だ多く、海獸には、臘虎、海豹、膾肭獸、海驢、及
び鯨等あり。魚類には鮭、鱒等あり。若し適當に之を保育し、之

を捕獲せば、其利計る
べからざるものあら
ん。然れども、我國人未
だ之を曉らず、多くは
外國密獵船の濫漁に
委す、識者の夙に惜む
所なり。先年來郡司海
軍大尉等報公義會の
諸氏、占守島に移住し
て北門經營に従事す。
千島の地之より益、見
るべきものあらん。



千島の海獸

第四節 南域

(イ) 琉球 (沖繩縣)

琉球は薩南諸島に連りて西南海中に羅列せる島嶼より成る。分つて沖繩群島、先島群島の二となす。前者には沖繩島最も大なり。後者は更に宮古列島、八重山列島に分ち、宮古島、石垣島、入表島大なり。島數五十五、地勢自ら、東北、薩南諸島に連なる。其之を分つはただ古來行政上の習慣に従へるのみ。

沖繩島の南部に那覇港あり、沖繩縣廳の所在にして大阪、神戸より鹿兒島を経て毎月數回汽船の往復あり。清國に對する特別輸出入港なり。其東、里餘、首里あり、舊王城の地たり。島内多く甘藷を栽培す、之を琉球芋といふ。又薩摩芋といふはもと琉球より薩摩に渡り、遂に全國に及びたるを示せるも

那覇區

首里區

産物



(首里山中) 門城王蓄里首

のなり。薩摩紼と稱する木綿紼も亦多く此地に産す。其蘇鐵、芭蕉布等、暖地的の産物あるは、尙北方、大島と同じ。又紬、泡盛酒、塗物等の産あり。

琉球人固有の言語風俗は大に内地現今のものとも異なりたるものあり、却て内地の古代の風習に似たるものありといふ。然れども近來大に内地風の教育盛なれば不日全く同化するに至るへし。又從來往々支那を慕ふの輩ありしも二十七八年戰役後は大に其思想も改りた

りといふ。

(ロ) 臺灣

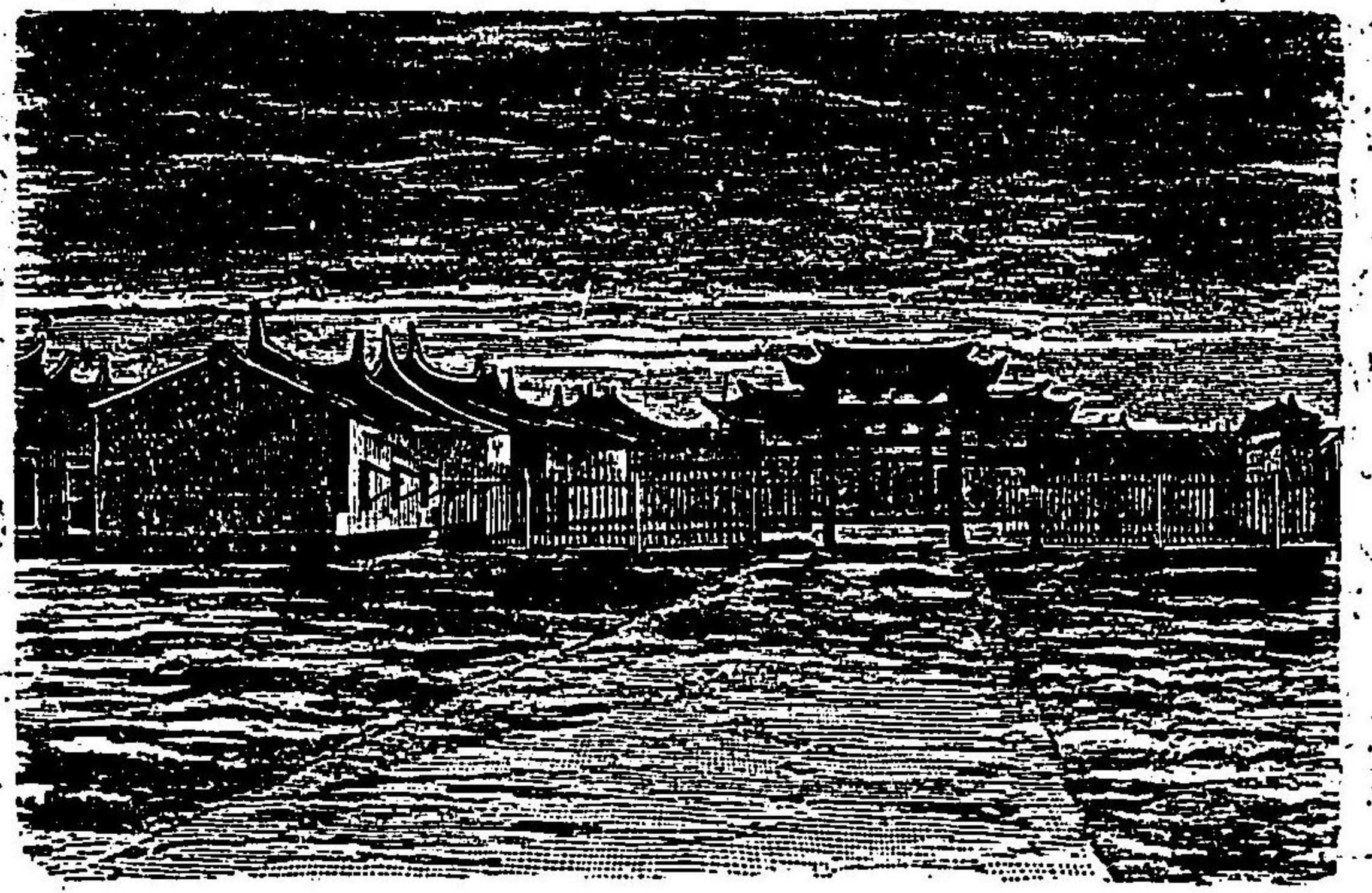
臺北縣

臺北

臺北縣は臺灣島の北西部を管す。縣廳は臺北に在り。臺北は此地が尙清國領たりし時に於いて全島の首府たりし所に於いて、今亦總督府及び混成第一旅團司令部等あり。城は厚さ二間許、高さ三間許の、上部に凸凹ある支那風の城壁を以て繞らし、淡水河に瀕す。附近に大稻埕、艋舺あり。共に淡水河に臨み商業繁盛なり。河は本島第一の大河にして、北流し、淡水港(滬尾)に至つて海に入る。河口より艋舺迄小汽船を通ずべし。淡水河の通ずる所、近傍良田多く、平地には孟宗竹の繁茂せるあり。又多く茶を栽培し、大稻埕の如きは實に製茶の本

淡水河

基隆港



場なり。

臺灣鐵道あり、もとの臺灣巡撫劉銘傳の創設せし所に於いて、臺北より東北基隆港に達す。基隆港は本島の東北端に於いて、前面に鷄籠島の横はるあり、北部第一の良港にして、神戸より毎月數回汽船の往復あり。現今内地人の最も多く住する所なり。基隆の近傍地方石炭に富み、其發掘高頗る多く、茶と共に北部産物の主要なる者なり。

新竹

臺灣鐵道は更に臺北より、西南もとの新竹縣廳の所在たりし新竹を経て香山に達す。之より南方に本島を縦貫せん豫定なり。此鐵道の經る所、平野多く、田園能く開け、米には一年二回の收穫あり、島人耕作に精勵なり。新竹の西北に舊港あり、特別輸出入港たり。

臺中縣

臺中

臺中縣は西部臺灣の殆んど中央部を管す。此地方平野廣く打ちつゞき、西の方は臺灣海峽を挾んで支那福建省に對す。縣廳は大肚溪の北、臺中にあり、此所に混成第二旅團衛戍す。新竹より苗栗を経て至るへし。苗栗は山間の一邑にして樟腦の製造多し、然れども其地蕃地に近く、時々其襲來を被る事ありといふ。凡る臺灣一帶殊に生蕃の境に近き地は樟林

苗栗

鹿港

多く、建築用の樟材、及び樟腦の産出頗る多し。苗栗より後壠溪を下れば後壠港あり、其西南なる梧棲港、鹿港と共に特別輸出入港たり。然れども何れも水淺くして大船を容れ難く、たゞ支那船多く來て碇泊す。中にも鹿港は支那本部交通に至便なりとて最も繁盛なり。鹿港の東北に彰化あり、鹿港と共に縣下の大邑にして、附近沃野十數里、農産物多し。

臺南縣

臺南

臺南縣は本島の西南部を管す。縣廳の所在臺南は久しく臺灣の首府たりし所にして、商業繁盛、臺灣第一等繁華の域たり。今混成第三旅團衛戍す。此地は嘗て和蘭人の據りし所にして、紅毛城趾尙見るへし。其後明の遺臣鄭成功の來れるも、

安平

我が濱田彌兵衛の蘭人を威服せしも、皆此地に起りし所に
して、歴史上最も縁故多し。臺南の西に安平港あり、西南部の
盛なる開港場にして砂糖の輸出多し。凡そ臺灣南部は砂土
にして甘蔗に適する地多く、其砂糖は北部の茶と相並びで
南部の主要なる産物なり。此他臺灣は地、南域に位して極め
て暖國なるが故に、椰子、鳳梨等暖地的産物は至る所に多し。
又落花生も各地之を産す。

嘉義

臺南と彰化との中間に嘉義あり、もとの嘉義縣廳の所在に
して臺灣南北に通ずる要區なり。其東方には新高山の雲表
に聳ゆるあり、高さ富士を凌ぐ。此山もトモリソンと稱せし
を、新領土の高山の意を以て勅して今の名に改めしめ給ひ
しなり。此山の脈長く南北に引いて所謂新高山脈となり、西
部と蕃地との境界をなす。

新高山

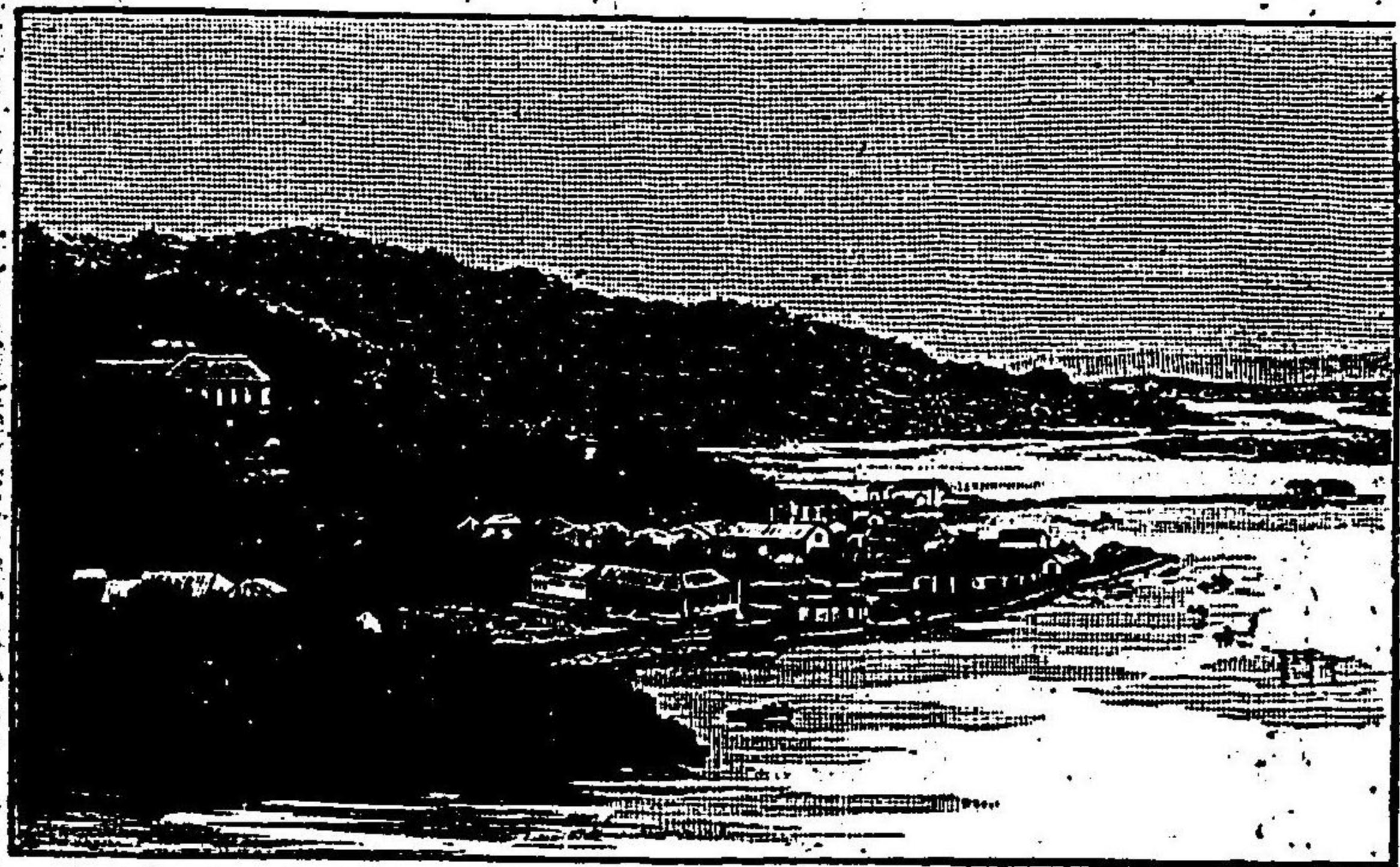
鳳山

打狗

帝國の極南

臺南の南方に鳳山あり、もとの
鳳山縣廳の所在にして、其西に
打狗港あり、臺灣鐵道の終點た
り。此港もと盛なる開港場なり
しも商業次第に安平に吸収せ
らるる傾あり。東南に東港あり、
下淡水溪口にあり、西北なる東
石港と共に特別輸出入港たり。
前面に小琉球島あり、珊瑚島な
り。

臺灣島の極南を南岬といふ、我
帝國の最南にして赤道を去る
僅かに廿一度に満たず。其西北



打 狗 港

に恒春あり。之より東北は即ち生蕃地にして、明治七年我國の征服せし牡丹蕃社等あり。

宜蘭廳

宜蘭廳は臺北縣の南、本島の東北隅を管す。此地、西南北の三方山を以て圍まれ、中に平野あり。廳は宜蘭にあり、熟蕃多く住して耶蘇教行はる。前面の海中に龜山島の横はるあり。東南、蘇灣港は港内水深く、東海岸の要港にして、特別輸出入港の一たり。

臺東廳

臺東廳は東部生蕃の居地を管す。此地方未だ探檢周ねからず、地理の詳細を知るなし。東岸は一帶に懸崖絶壁多く、僅か

卑南

に花蓮港等船を寄すべきあり。東南卑南大溪の下流卑南あり、之れ即ち臺東にして臺東廳の所在なり。生蕃は數多の蕃社をなして山間に住し、往々鬭争を事とし、時に西方に出でて襲撃を逞ふするあり。然れども又耕作に従事するもの少からず。

東南海中に紅頭嶼あり、一種の土人ありて之に住す。

澎湖廳

媽宮港

澎湖港

澎湖島は臺灣の屬島中最も必要なる者にして、三大島と數多の小島より成る。澎湖本島最大なり、西部に媽宮港あり、島廳の所在にして、特別輸出入港の一たり。西に漁翁島あり、北に白沙島あり、三島相依て中に澎湖港を擁す。航行の船舶は此所に臺灣海峡の暴風を避くるを得べし。島中米穀を産せ

ず、落花生、鶏、豚等を臺灣本島に輸送して貿易す。

第六章 結論

日本とは日出國の義なり。地、亞細亞大陸の東方、海中に位して、他の諸國民よりも早く大陽の光輝に浴するが故に、此名あり。土地未だ以て廣しと稱すべからざるも、地味膏腴、嘉穀豐饒、古來瑞穂國の稱あり。國民武に勇み、愛國の念深くして、未だ嘗て外敵の侵寇を許さず。浦安の國名は今も昔に變る事なし。然れども時運は永く我が國が海表に孤立するを許さず。列強争ひて利を東洋に求めんとするに方りては、亦別天地にひとり自ら清うすべきに非ず。今や各國交通の道開け、露西亞、韓、清等の隣國のみならず、英吉利、佛蘭西、獨逸、北米合衆國等、山海萬里を隔つる諸國と雖も、汽船の便を借らば、僅々の日子を以て來往するを得べく、西比利亞鐵道全通の曉に至らば、露西亞本國の陸兵は陸路を直行して、容易に我

國の對岸に至るを得べければ、我が細戈千足の國民が特有なる日本魂は、二千五百年來嘗て銷磨の痕を見ずと雖も、之に對する向後の諸外國は、嘗て弘安の昔、一度我が九州の西邊に寇し、一敗の後遂に再舉を圖る能はざりしが如き、至つて海軍には不得手なりし元兵十萬の比にあらざること、覺悟せざるべからず。而して此等諸國の間にありて、能く國威を輝かし、永く浦安の國たる實を舉げんには、兵備に、學問に、農工商に、また其他一切の事業に、何れも改善の道を講じて、決して他國の後へに落ちざらんことを期せざるべからず。我國の所在已に日出名譽の位置を占り、地理上の天惠已に萬國に卓絶す。此名譽の國に生れ、此天惠の土に住するもの、豈に、日章旗に一層の光輝を添へ、世界先覺者たるの實を舉げずして可ならんや。

附録 (産物摘要)

- 東京 入王子の絹織物、青梅綿、大森邊の淺草海苔、麥藁、眞田、梨子、東京市の錦繪、蒔繪、銅器、七寶燒等の美術工藝品、八丈絹、小笠原島の鳳梨、椰子、櫻桐、玳瑁、大蝠、蟾、龜、信天翁。
- 埼玉 麥、綿、二子織、藍、秩父絹、川越の甘藷及び斜子平絹等の織物。
- 神奈川 横濱の輸出漆器、陶器、江の島の貝細工、箱根の挽物細工、小田原の漬物、鰻、鯉、鮪等の海魚、石花菜、鰹節、干鰻、行徳の鹽、流山の味淋、野田の醬油、鷄卵、米等の農産物、銚子縮、佐倉炭。
- 茨城 結城紬、西部地方の木綿、水戸地方の煙草、漆汁、粟野の春慶塗、粟野膳、石岡、土浦の醬油、石岡の酒、鰻、鯉、鮪等の海魚、麥等の穀類、御影石、寒水石。
- 栃木 足利地方の織物、眞岡木綿、鹿沼地方の大麻、足尾の銅、日光塗、日光羊羹、葛生地方の石灰。
- 群馬 桐生の絹織、前橋の生絲、伊勢崎銘仙、蠶卵紙。
- 福島 會津(若松)の陶器、本郷燒、漆器、蠶繭、二本松の紬、福島羽二重、絹絲、蠶卵紙。

附録 (産物摘要)

宮城 眞綿、半田銀山の銀、中村の相馬焼、三春の馬、馬鈴薯、煙草。
 仙臺平、仙臺米、仙臺鮭、埋木細工、銀、鉛。
 岩手 南部釜、南部漆器、南部縮緬、南部馬、釜石鉄。
 青森 津輕韓塗、硫黄、鮑、海參、鱈、鯨、昆布等の海産物。
 秋田 秋田藁、秋田畝織、秋田米、院内、阿仁、尾去澤等諸鐵山の金、銀、銅、能代の
 春慶塗、硫黄、鱈、鮭。
 山形 米澤の糸織、蠶絲、眞綿、漆汁、漆器、新庄の龜絞織、鱈、鮭。
 新潟 越後縮布、十日市の透綾、五泉村上の平絹、信濃川、三面川等の鮭、燕町
 の銅器、越後米、石油、佐渡の金、相川の無名異焼。
 長野 木曾の材木、更科の蕎麥、上田紬、生絲、眞綿、蠶卵紙、漆汁、漆器、
 奉書、杉原等の紙類、寒天。
 山梨 水昌、甲州葡萄、甲斐絹、郡内絹。
 静岡 茶、静岡の輸出漆器、静岡の竹細工、駿河半紙、富士石、伊豆石、伊豆
 節、遠江の疊表、天城山林等の材木、鮭、鱈、石花菜、鱈鱗及び奥津鯛等の海
 産物。

愛知 瀬戸、常滑、犬山等の陶器、七寶焼、尾張大根、鳴海絞、名古屋扇、知多半
 島の酒、醋及び醬油、三河木綿其他の木綿織、尾張平野の藍綿。
 岐阜 美濃紙、美濃焼陶器、岐阜提燈、岐阜團扇、岐阜の縮緬、長良川の香魚、
 高山の批目春慶塗、生絲。
 石川 金澤象眼、金澤銅器、輪島山中等の漆器、九谷山代の陶器、小松、大聖寺
 等の加賀絹、輪島鹽、鯛、鮭、海參、疊表、麻織物、漆汁。
 富山 富山の反魂丹、高岡の銅器、漆器、米、鱈、鯛。
 三重 津の絹子、松坂縞、桑名の時雨蛤、万古焼、菜種、種油、伊勢蝦海鼠貽貝、
 斑貝、鹿角菜、鱈等の海産物。
 滋賀 鮭、鯉等の魚類、八幡蚊蠅、濱縮緬、野州晒布、信樂焼、江州米、菜種、
 虎石の硯、舟木の花筵、伊吹艾。
 福井 若狭の鱒、小鯛、鰯等海魚、若狭塗、茶、越前雲丹、麻織、奉書、鳥の子、杉原
 等の紙類、生糸、羽二重、奉書紬。
 京都 西陣の織物、友禪染、繻物、清水、粟田の陶器、伏見人形、宇治茶、白川
 石、京紅、京白粉、京塗、七寶焼、銅器、綴錦、丹波栗、木材、寒天、

奈良

丹後縮緬、鮒、鰯、海鼠等の海産物。

吉野山地の吉野葛、吉野漆、吉野紙、月ヶ瀬の梅漬、梅の木細工、奈良の奈良晒布、奈良漬、奈良團扇、根來塗、霞酒、奈良人形、大和紵。

和歌山

熊野沖の鯨、和歌山の綿、黒江椀、高野山林の高野槇等の木材、高野豆腐、有田の蜜柑。

大阪

紡績綿絲、堺の段通、庖刀、道明寺糰子、菜種、種油、綿、河内木綿、摺附木、寒天、麥酒、清酒。

兵庫

池田、伊丹、西宮等の清酒、生野の銀、出石焼、姫路の姫路木綿、姫路革、明石の明石縮、明石玉、神戸の牛肉、龍野の醬油、赤穂の鹽、鯛、播州米、福良の珉平焼。

岡山

伊部焼、高梁地方の麥藁具田、備後疊表、花筵、食鹽、鯛、鰻、美作の雲齋木綿、煙草。

廣島

納の保命酒、廣島の牡蠣、廣島の牛肉、備後疊表、花筵、食鹽、鯛。

山口

赤間關の硯石、石炭、食鹽、鯛、煎乾鰯等の海産物、長州蜜柑、米穀、岩國縮、岩國半紙。

島根

布志名焼、玉造の瑪瑙、邇摩銀山の銀、鯨、中の海の鱈、隠岐の鳥賊等の海産物、宍道湖の鱈、鰯、白魚等。

鳥取

伯耆牛、白珊瑚、海松、藍、德島の絨織、綿、半田椀、池田の煙草、鳴門鯛、齋田鹽、砂糖、煎乾鰯等の海産物。

香川

砂糖、煙草、食鹽、小豆島石、別子銅山の銅、市の川鑛山の安賀母尼、宇和島の半紙、砥部焼、松山の伊豫紵、生臘、砂糖、鹽、鯛。

高知

土佐紙、珊瑚、鯛、鰻、鰯、食鹽、鯛、生臘、硫黃。

大分

日向炭、椎茸、茶、都城の萬年青、櫻島大根、薩摩焼、薩摩紵、甘藷、薩摩砂糖、國分煙草、金、阿久根地方の焼酎、鰻、薩摩節、硫黃。

宮崎

日向炭、椎茸、茶、都城の萬年青、櫻島大根、薩摩焼、薩摩紵、甘藷、薩摩砂糖、國分煙草、金、阿久根地方の焼酎、鰻、薩摩節、硫黃。

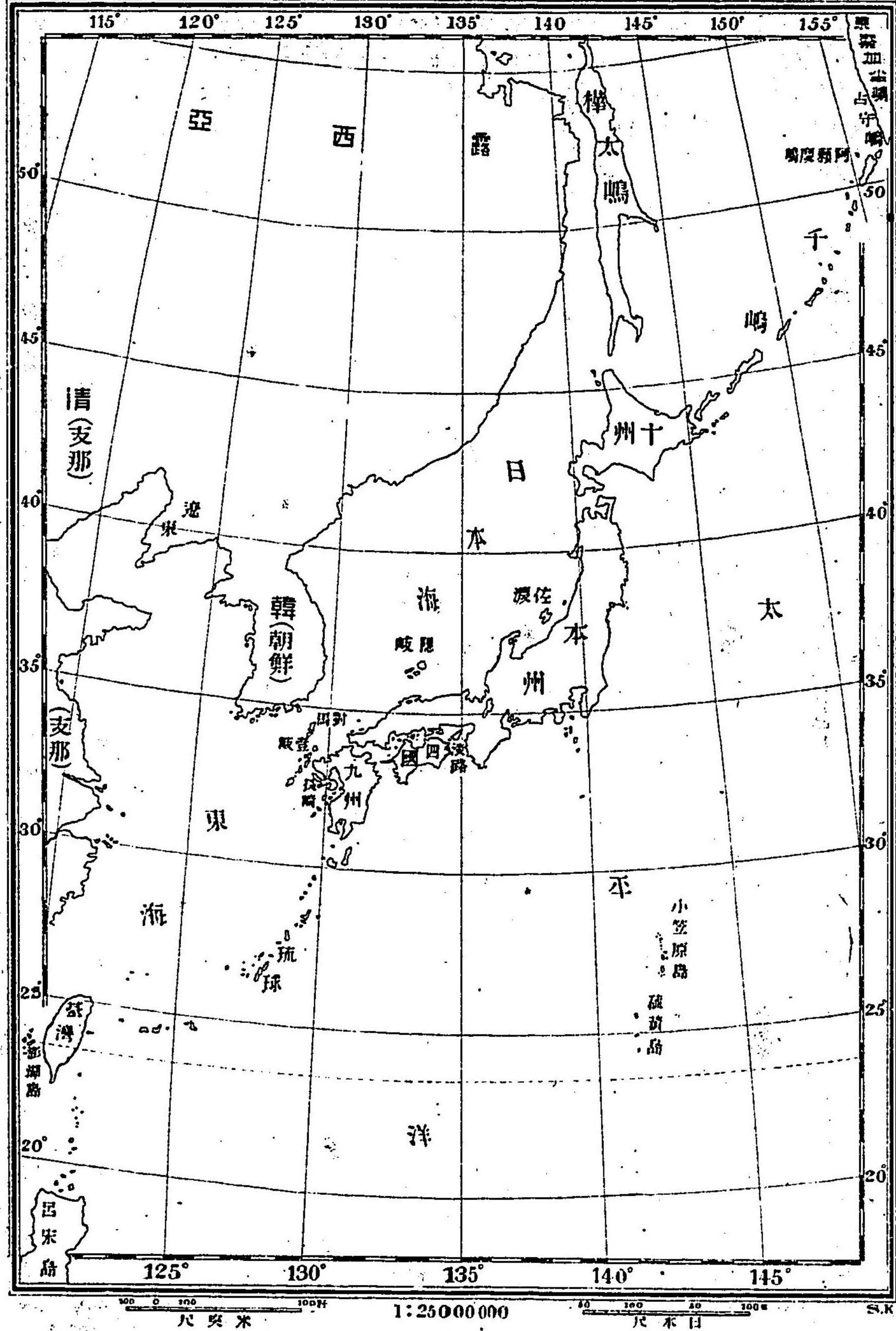
鹿兒島

大島紬、芭蕉布、蘇鐵、竹、七島疊表、永良部鰻。

熊本

香魚、米、麥等の穀物、甘藷、備後表、琉球表等の疊表、焼酎、赤酒、熊本

日本帝國全國圖



第一圖

の朝鮮館。

長崎 平戸の陶器、長崎煙草、甘藷、五島の鯨及び烏賊、對馬の鮑、海參、雲丹及び

干鮑、鱈鱈等の海産物、高島の石炭。

佐賀 有田、伊萬里、唐津の陶器、唐津の石炭。

福岡 博多織、小倉織、久留米紬、筑後米、清酒、菜種、種油、藍、苧麻、石

炭。

北海道 鯨、昆布、鮭、鱈、砂金。(以上所々に産出す)

渡島五稜廓の氷、石狩諸炭山及び岩内の石炭、内浦灣沿岸の砂鐵、札幌

諸會社製造の砂糖、麻麥酒、日高新冠牧場の馬、十勝川の黒曜石、釧路の

硫黃、厚岸、牡蠣島の牡蠣、千島沿海の鰐、海豹、海狗、海馬、鯨等の海獸。

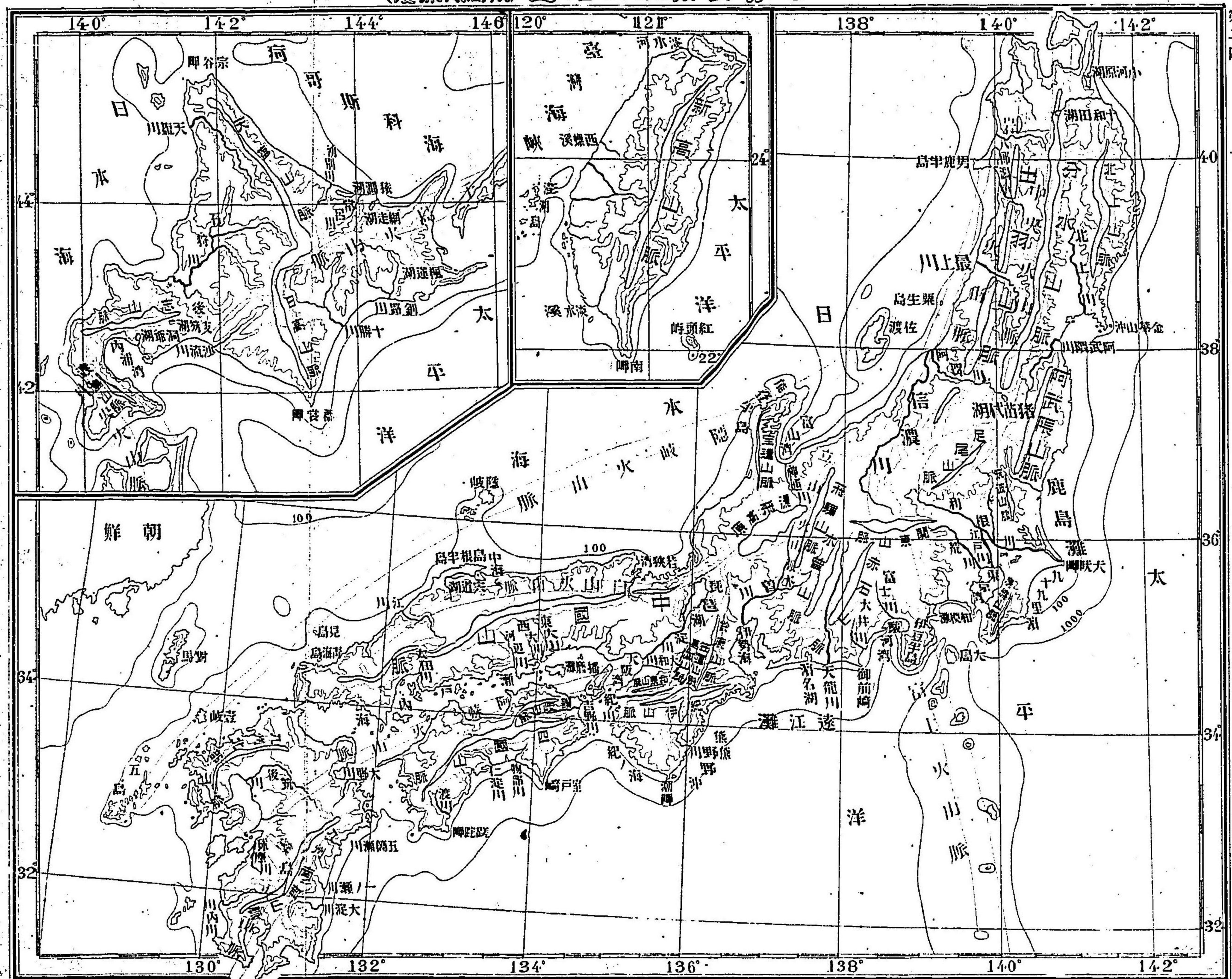
琉球 甘藷、琉球芋、薩摩紬、蘇鐵、芭蕉布、紬、泡盛酒、琉球塗。

臺灣 北部の茶、石炭、及び孟宗竹、南方の砂糖、此外樟腦、樟材、米、落花生等の農

産物、椰子、鳳梨等の暖國的天産物

(淺深後高附) 圖略系水系山勢地

第二圖



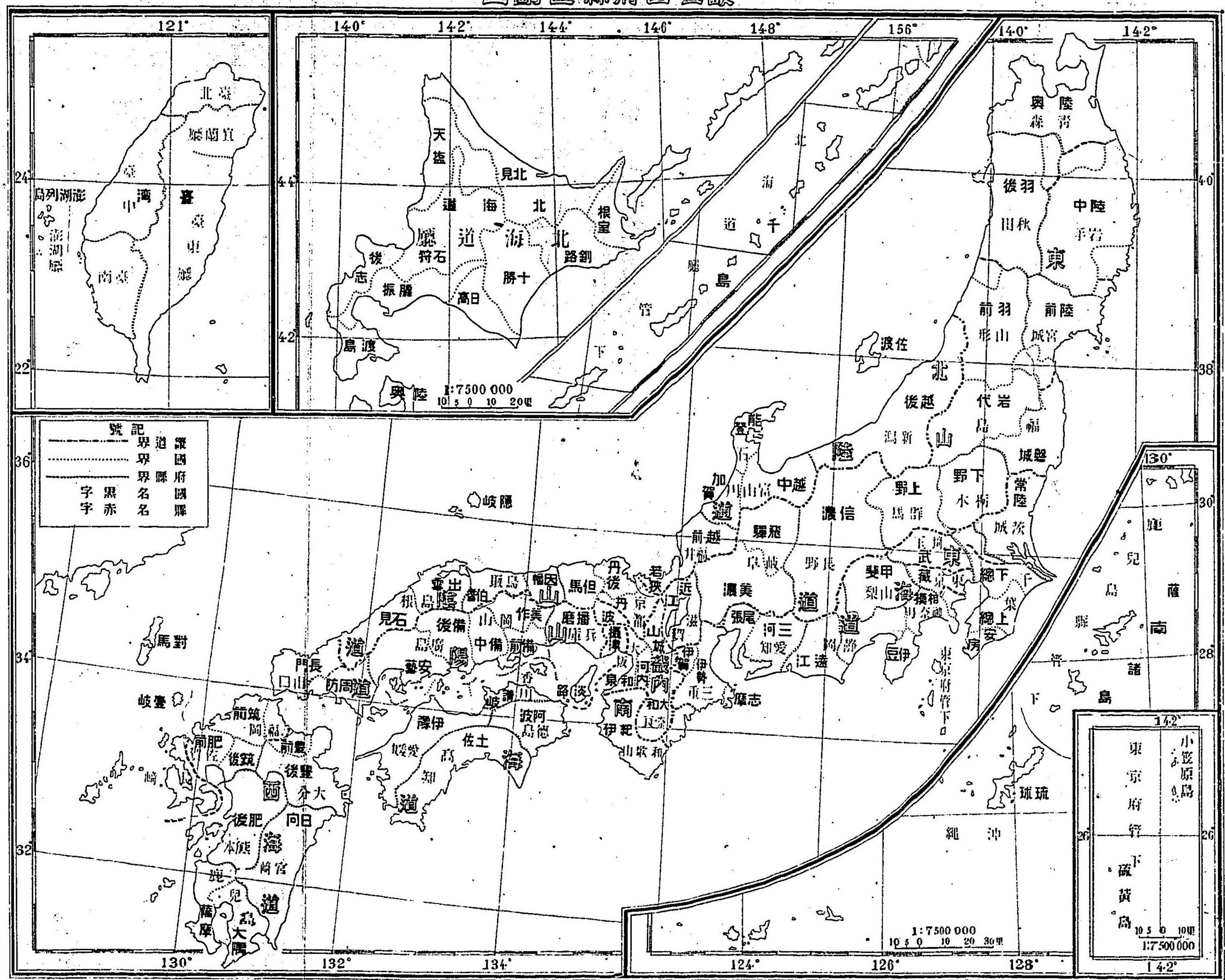
上以尋百
 上以尋千
 尺 突 米
 尺 本 日
 上以突米十
 上以突米百

1 : 6 000 000

S.K

畿道府縣區劃圖

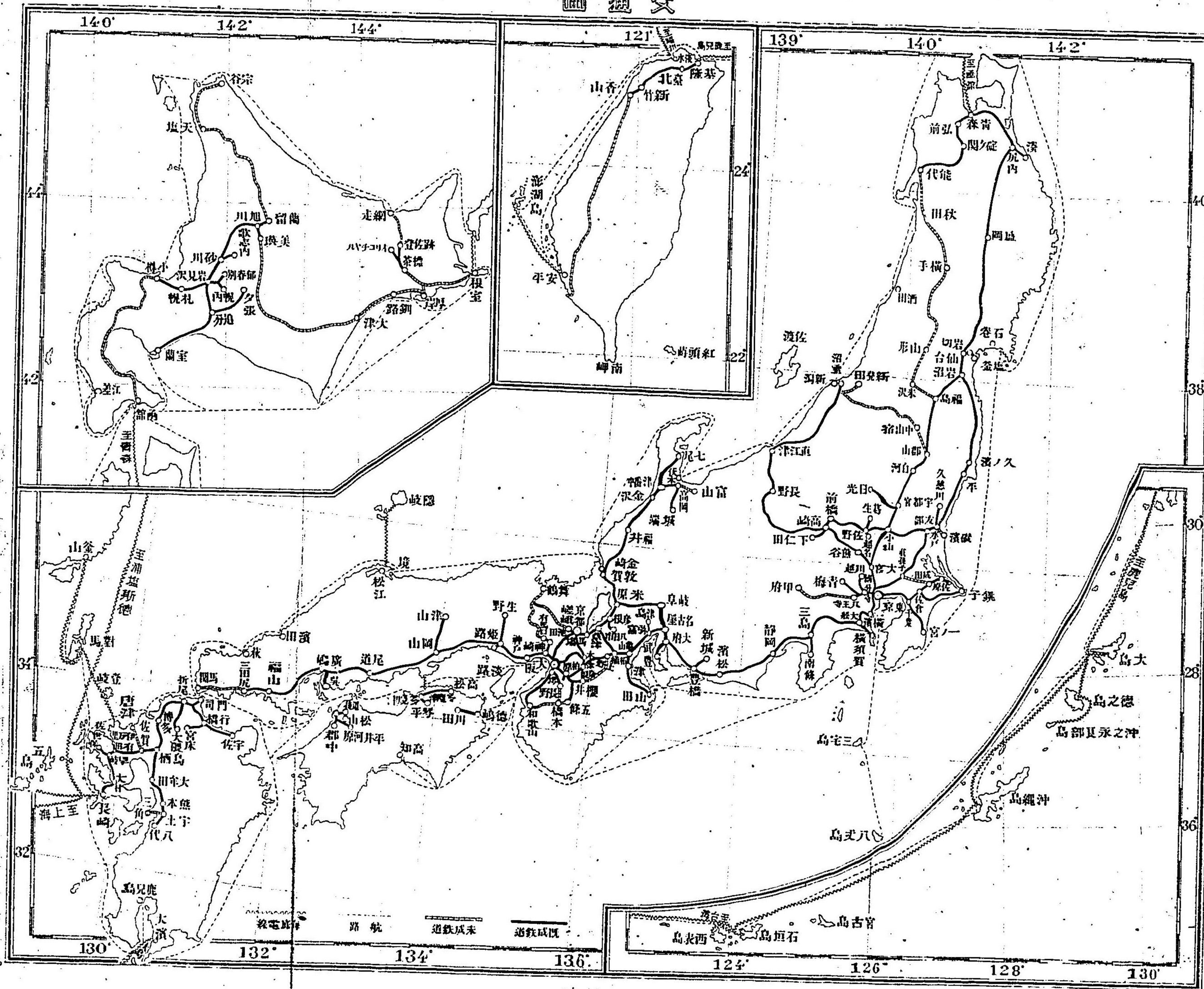
第三圖



S.K

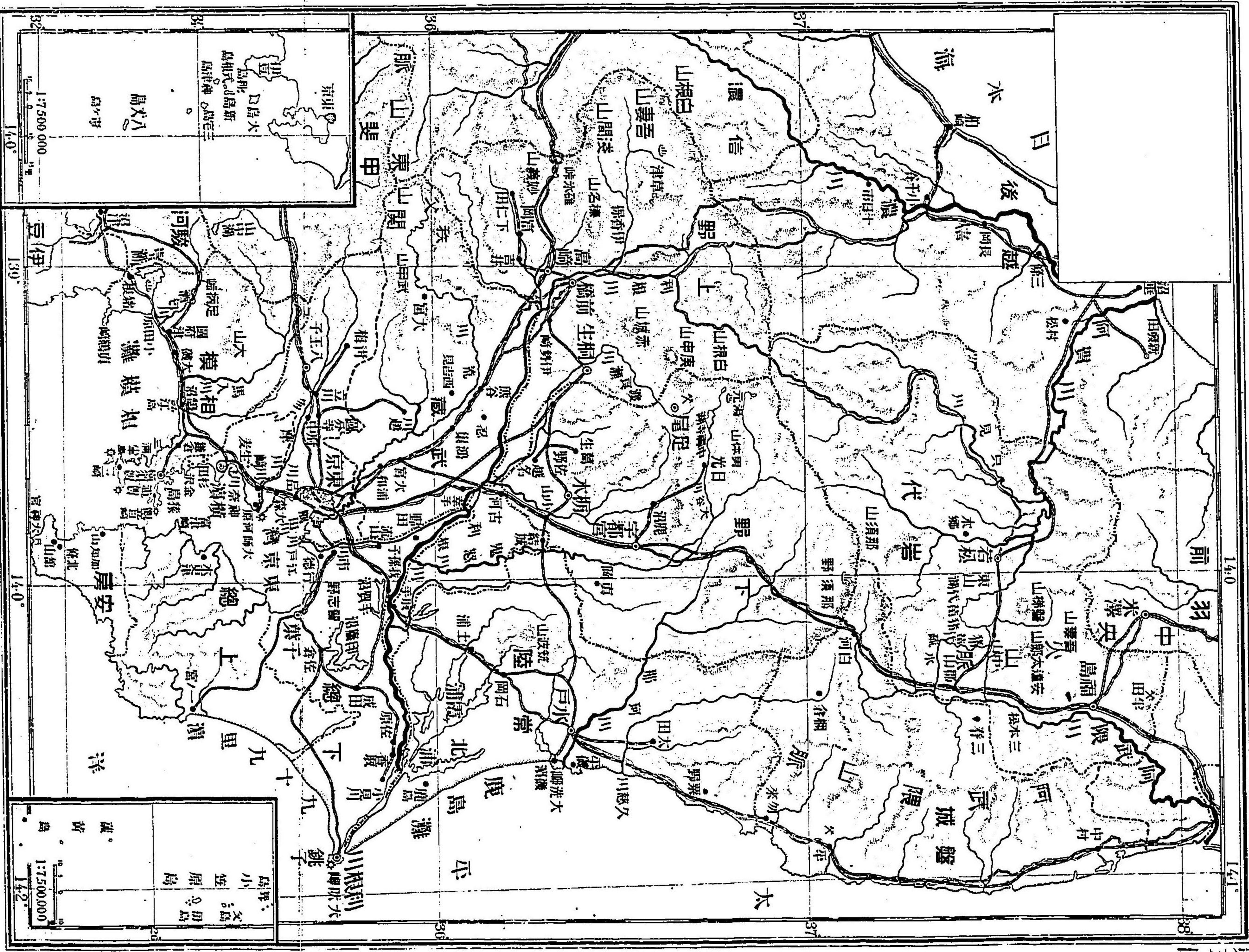
交通圖

第四圖

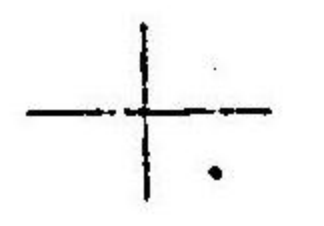


都府縣物産州八東國

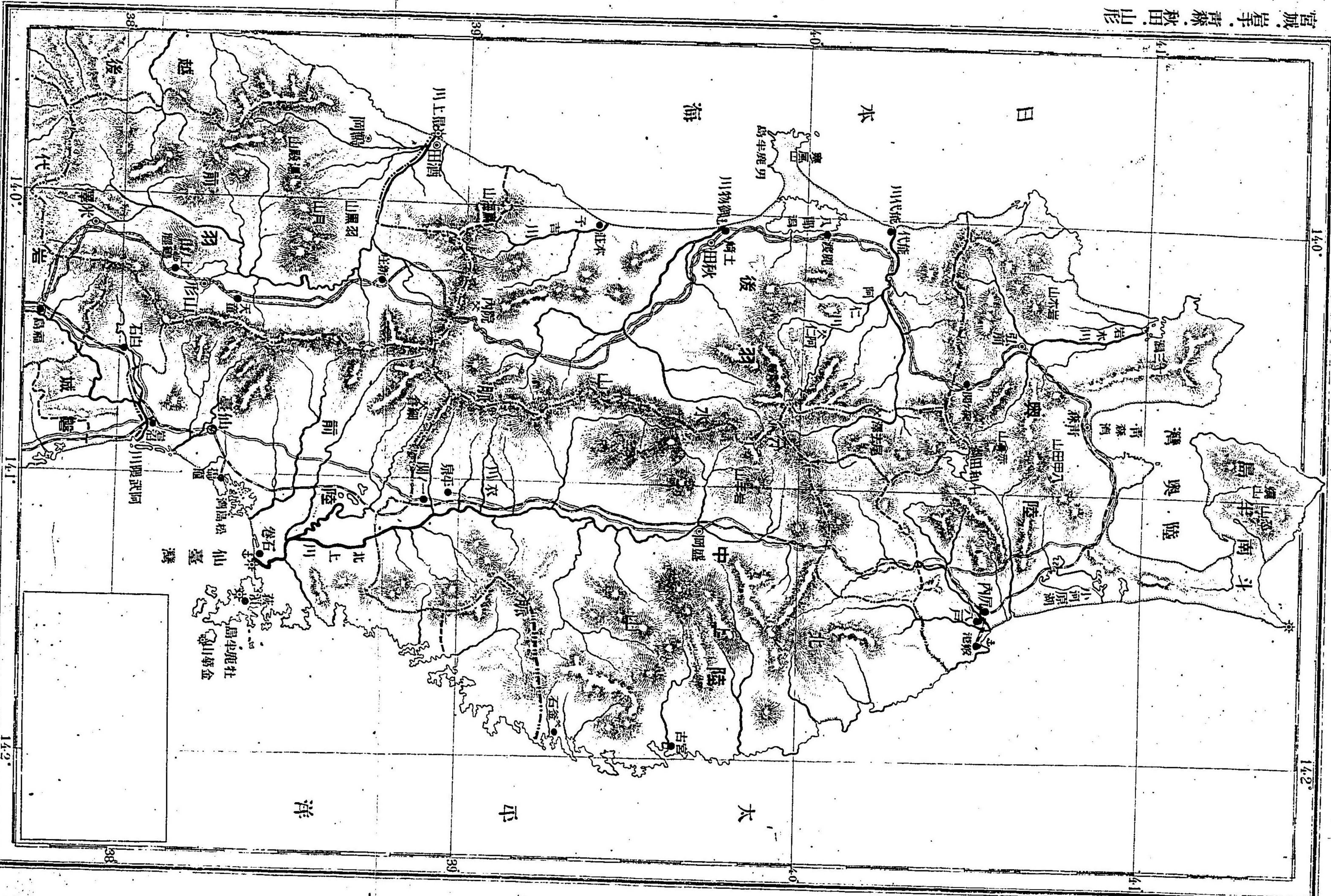
第五圖



東京、神奈川、埼玉、群馬、栃木、福島



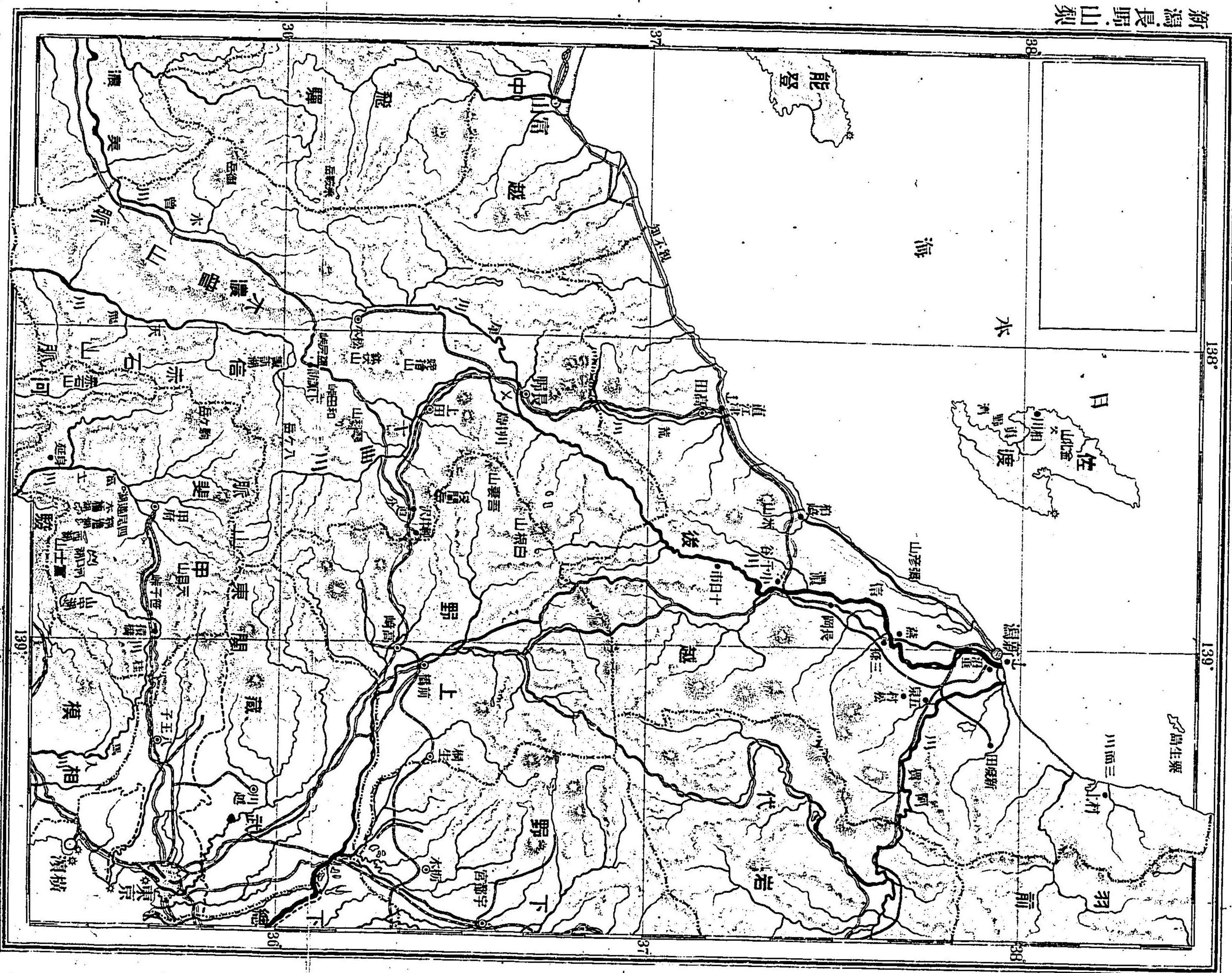
奥羽北部



第六圖

宮城、岩手、青森、秋田、山形

東部中州本

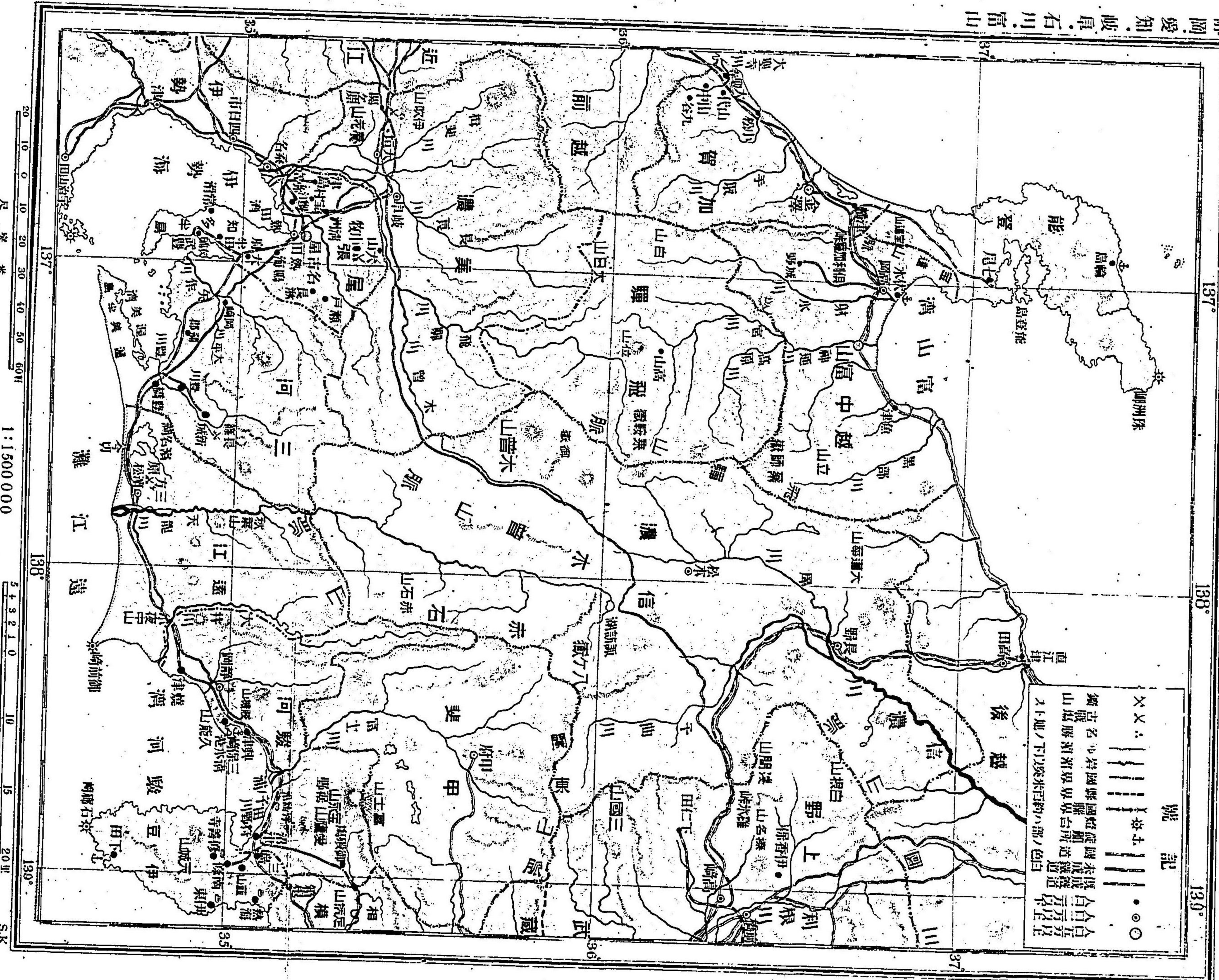


第七圖

新瀨長野山梨

新 瀨 野 中 野 水

新瀨野中野水 石川富山



號 記

××× 古名
 〇 國境
 〇 縣境
 〇 市界
 〇 町界
 〇 村界
 〇 未成鐵道
 〇 成鐵道
 〇 台勢
 〇 台勢
 〇 台勢

尺 英 米

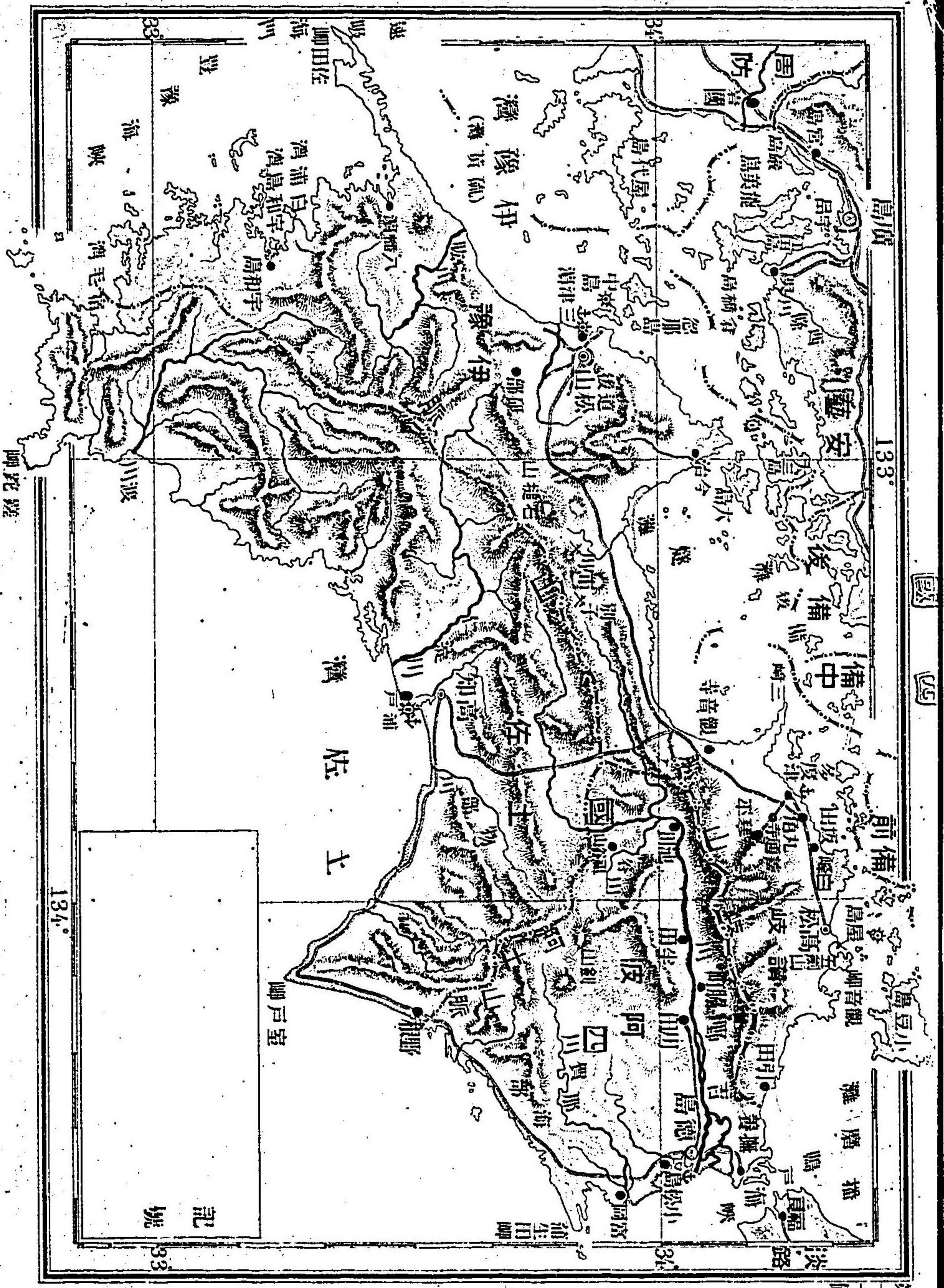
1:1500000

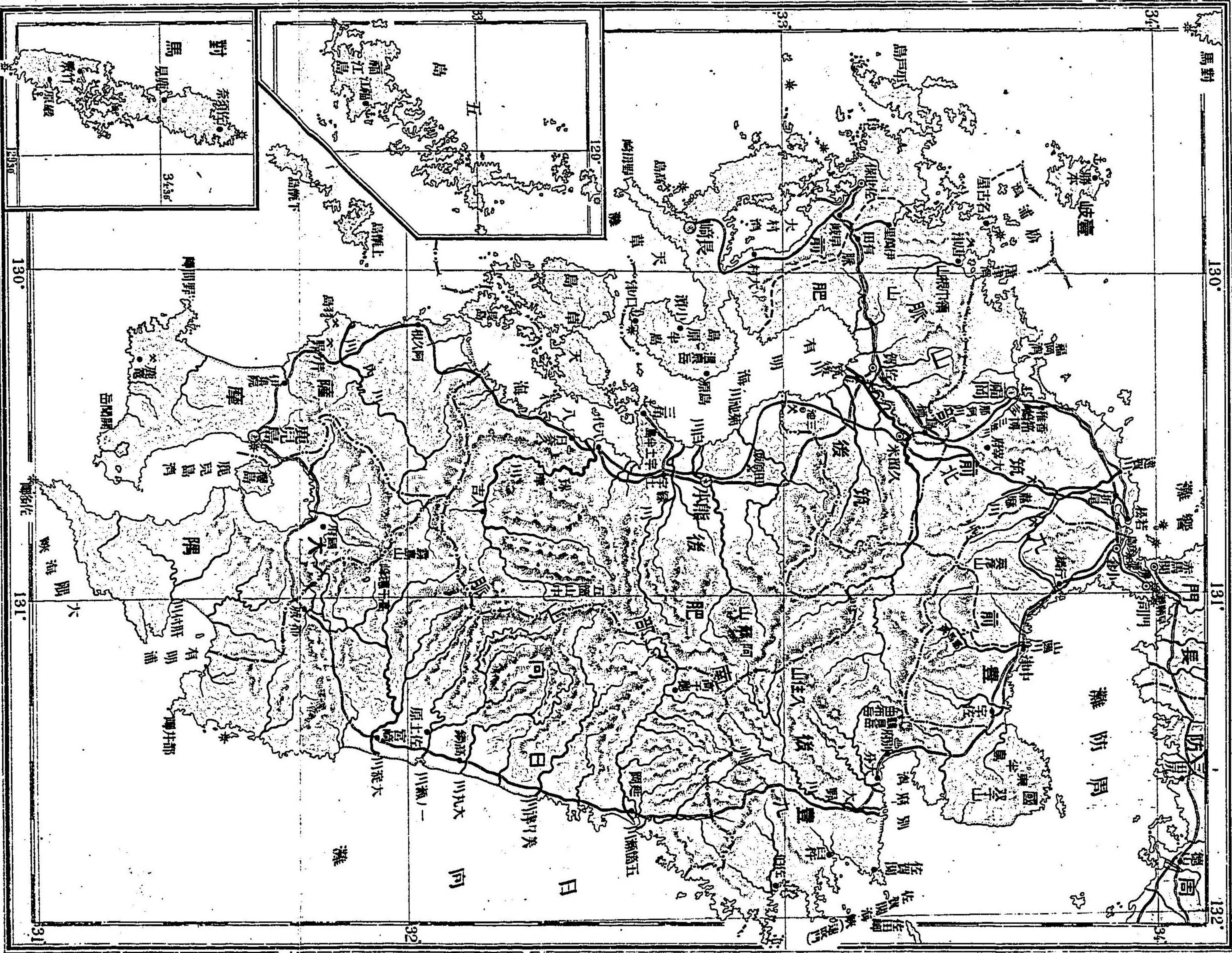
尺 水 口

S.K

欠

MISSING



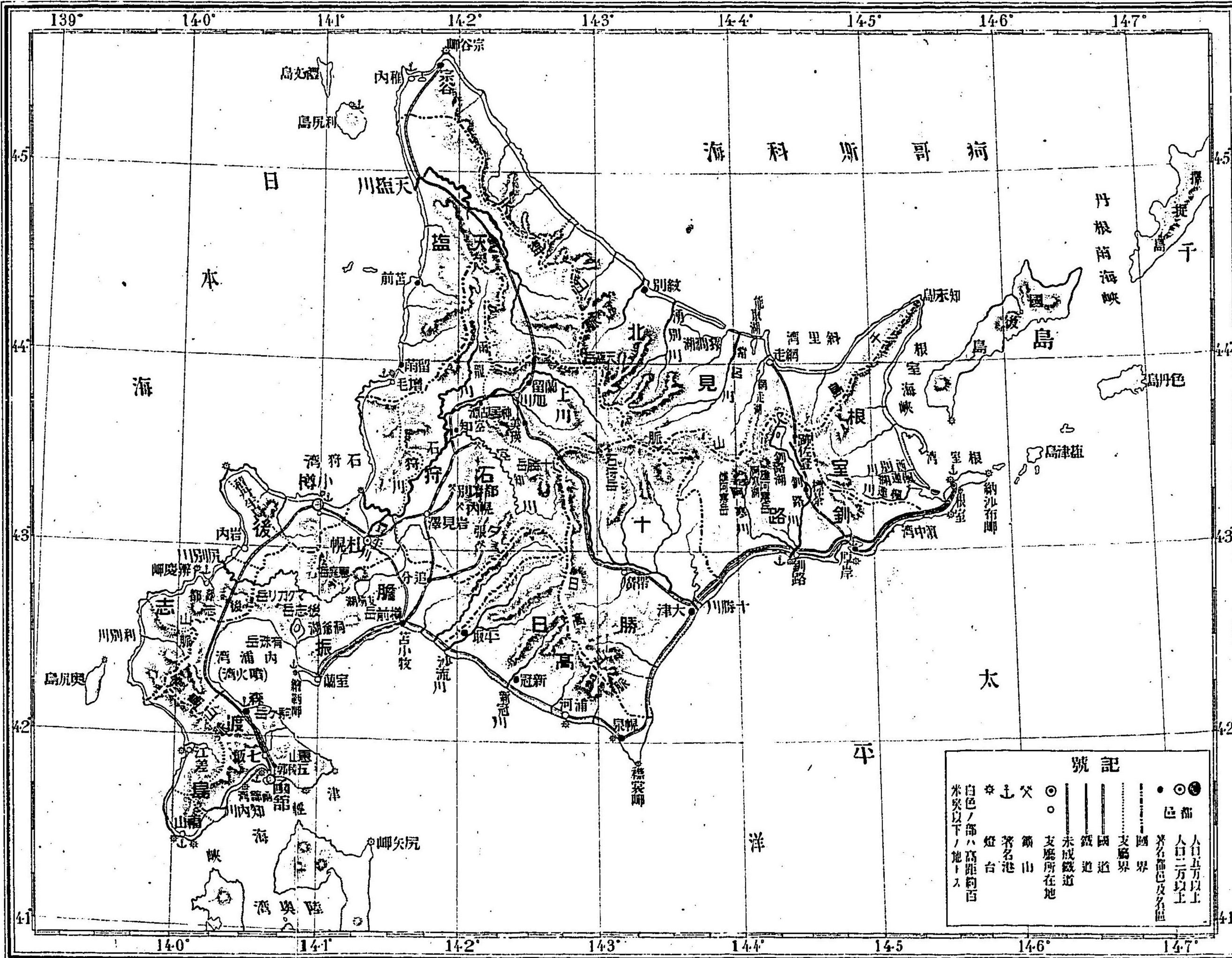


福岡・佐賀・長崎・熊本・鹿児島・宮崎・大分

十州北海海道(地本道海北)州十

北海道廳

第十三圖

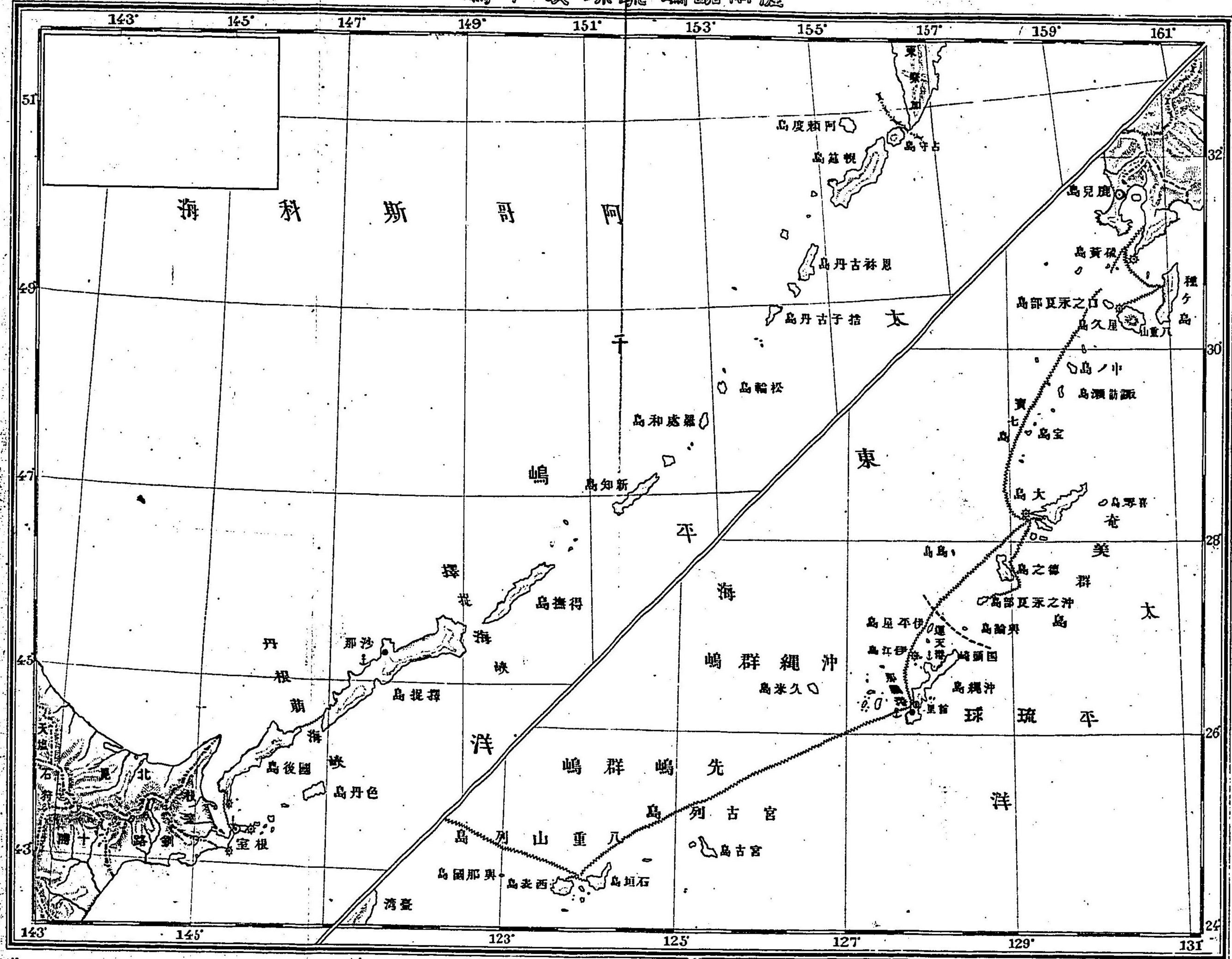


記號

●	人口五万以上
○	人口二万以上
○	著名邑及名區
○	支廳界
—	支廳所在地
—	國道
—	鐵道
—	未成鐵道
—	支廳所在地
▲	著名港
★	燈台
○	白色ノ部ハ高距離ノ百
○	米契以下ノ地ノス

25 50 75 100 125 尺 米 1:3000000 10 5 0 10 20 30 尺 本 日 S.K

嶼千及琉球嶼諸南薩



明治三十二年三月十日印刷
同 年三月十五日發行

日本地理
(定價金九拾錢)

著作者

喜田貞吉

著作者

幸田成友

印刷者兼
發行者

金港堂書籍株式會社

代表者

右社長
原亮三郎

印刷所

惠愛堂

賣捌所

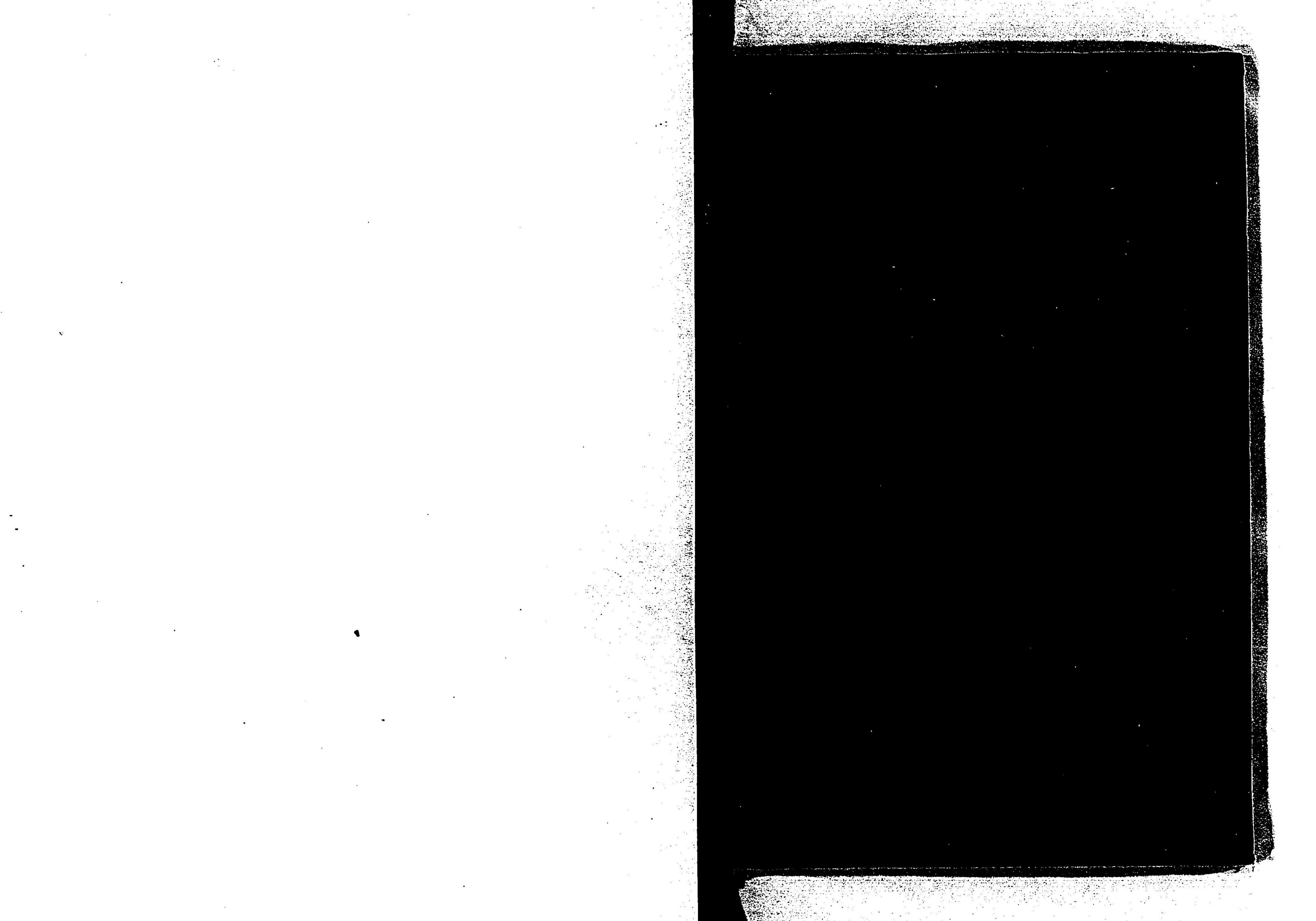
各府縣特約販賣所

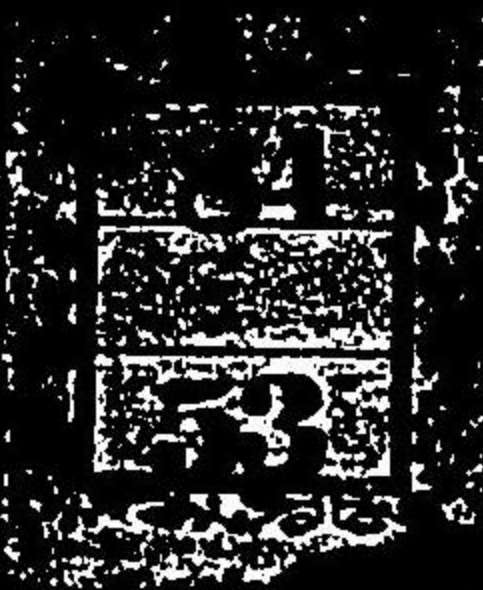


東京市麹町區內幸町壹丁目五番地

東京市下谷區龍泉寺町四百十番地







022956-000-8

84-53

日本地理

喜田 貞吉

幸田 成友 / 著

M32

ADB-0891



